



明るく・楽しく・元気良く
QCサークル活動

It's a *New* BOOK

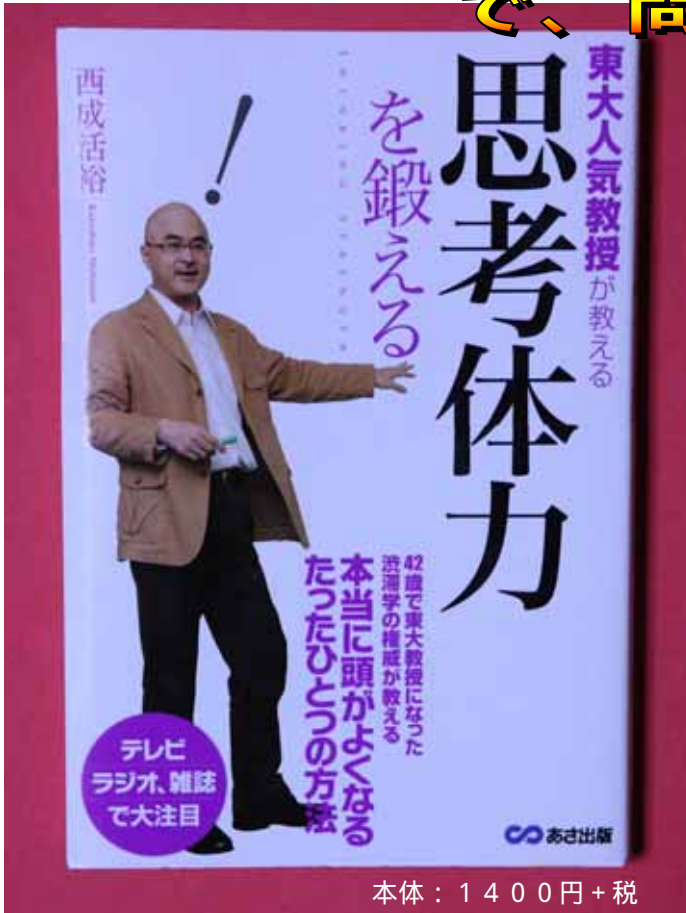
発行：2011年9月6日（火曜日）

QCサークル京浜地区・顧問・前川 恒久

“問題解決に役立つ”図書

あさ出版から売り出された東京大学教授・西成活裕先生の新著
“自己駆動力”など6つの力が問題解決には必要不可欠だ…

“思考体力”を鍛える!!! で、問題を解決しよう



本体：1400円＋税

本報告第35号で、TQE特別委員会の渡辺委員長から伺ったIBMの北城最高顧問が取組まれる「数学の意外な実用性と企業経営者から見たこれからの教育」をご紹介しましたので、既にご覧頂いた方も多かろうと存じますが、世の中のほとんどの問題解決には「数学」が役立っており、「数学」の重要性を訴えておられます。

北城最高顧問は「これからの時代のイノベーションは数学力次第である」と訴えています。今回ご紹介する西成先生は前号でもご紹介したとおり数理論理学者？という“数学力”を世の中の問題解決に役立てるため「渋滞学」を創った先生です。

組織の中には口だけで動かない人が見られますが、自ら目標を設定し、行動を促すエンジンを「自己駆動力」をまず身に付けるべき、主体性を持って行動できる人が大きな成果を上げると指摘しています。

「小さなことからコツコツと」と言われるとおり、愚直に地道な蓄積が大きな目標を達成するという基本を解説しています。

他にも「多段思考力」や「疑い力」、「大局力」や「場合分け力」そして「ジャンプ力」という計“6つの力”の総合力を発揮できれば、日頃直面する難題の解決も夢ではありません。

米国に留学経験のある方が書かれた「日米の大学生の大きな違いは何か？」によると、それが“読書量”だそうです。米国の学生は専門書だけでなく幅広い分野の本を4年間で平均480冊（年120冊）読まされるとか、日本とは大違いですね。

今年5月あさ出版から発売された西成先生の「思考体力」をぜひご一読下さい。

“新学習指導要領”が目指す“確かな学力、健康・体力、豊かな人間性”即ち「生きる力」を身に付け、“問題解決能力”を向上させるには、統計や確率など理数系学科を学び「問題解決力の強化」を図ることが急務ですが、先にご紹介の「とんでもなく役に立つ数学」では高校生向けに問題解決力を指導したケースが紹介されました。

その本の著者・西成先生の新著「思考体力を鍛える」では、QCサークル活動などで取り組む改善や問題解決の際に必須と考えられる「自己駆動力」や「多段思考力」など“6つの力”を活用すると威力を発揮できることが具体的に紹介されています。

《明るく、楽しく、元気良く……QCサークル活動》